

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和2年10月13日

施設名	歴史民俗資料館	所管課	文化生活スポーツ部文化振興課
-----	---------	-----	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県文化財団	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日
施設所在地	南国市岡豊町八幡1099-1		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の歴史、考古及び民俗(以下「歴史民俗等」という。)に関する資料の収集、保管及び展示 ・歴史民俗等に関する専門的な調査研究 ・歴史民俗等に関する講演会、講座、研究会等の教育普及活動 ・高知県における文化財の保存、活用の推進 ・上記のほか、歴史民俗資料館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p><建物> 延床面積4527.47㎡ RC造地上3階建 <土地> 124,520㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、体験学習室、多目的ホール、 収蔵庫、燻蒸室、研究室、会議室、資料室など <開館時間> 午前9時～午後5時 <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 通常展 一般470円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、 精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、 被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 企画展示室24,590円(1日) 多目的ホール15,700円</p>		
職員体制	常勤職員：9人 契約職員：11人 合計：20人		

※職員数は平成31年4月1日現在

2 収支の状況

単位：千円

		平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(予算)
収入	県支出金	159,697	162,768	158,842
	事業収入	5,570	6,913	6,025
	その他	6,379	818	
	収入計(a)	171,646	170,499	164,867
支出	事業費	171,646	169,960	164,867
	(うち人件費)	(84,257)	(77,674)	(73,479)
	その他		539	
	支出計(b)	171,646	170,499	164,867
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

		平成30年度(実績)	令和元年度(実績)	前年度比
① 年間利用者数 合計 (単位：人)	通常展	5,028人	通常展 7,113人	+ 2,085人
	企画展	18,756人	企画展 22,209人	+ 3,453人
	合計	23,784人	合計 29,322人	+ 5,538人
	<利用実績> コロナウイルス感染拡大防止のため休館したことにより、観覧者数が伸びなかったため、目標数をわずかに下回った(達成率：約95%)			

<p>② 利用者意見等の反映</p>	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期:年間 ・ 方法:アンケート用紙を受付及び展示室入口に配置 ・ 回答数:1,360 ・ 調査結果公表:『令和元年度高知県立歴史民俗資料館年報』において公表
	<p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場前の案内図が古くなり不鮮明 → 令和2年度に改修 ・ 身障者用トイレのスペースに荷物置きを設置してほしい → 荷物を置ける簡易な台を設置した
	<p>○ その他</p>
<p>③ その他特記事項</p>	

郷土の歴史や文化を後世に引き継ぐとともに、地域への理解と関心を深める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき、高知県の歴史、考古、民俗の各分野の資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1) 本県の歴史や文化を後世に伝えるうえで必要な資料を収集する
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

南国市から明治時代に出土した考古資料、大正から昭和初期にかけての高知県に関係する著名人の資料の他、手続きを終えた民俗資料を収蔵することができた。

<寄贈資料>

考古資料:乾家所蔵考古資料 南国市左右山付近から出土した古墳時代後期の須恵器は、明治時代初期の新発見資料として考古学史上重要な意味をもつものである。また、本資料はハイリッヒ・エドムント・ナウマンとの関係を示す貴重な資料である。

歴史資料:國澤家資料 高知県知事をはじめ本県に関係する著名人の署名がなされている『芳墨集』。平成28年度寄託資料から、寄贈へ切り換えたもの。

<寄託資料>

歴史資料:香美郡佐岡村(現香美市土佐山田)の旧郷土家に残る、長宗我部氏に関する竪帳や戊辰戦争に従軍した際の関係資料(森田家資料)、近代の白木谷(南国市)に関する資料群(西内家資料)が寄託された。

<購入資料>

歴史資料:『堅田経貞軍忠状』南北朝期の土佐における北朝方の動向の他、南朝方の動向も知ることができる史料である。

歴史資料及び考古資料・民俗資料の整理は、本年度も企画展の準備と併せ継続して行った。資料の保存処理・修理については以下のとおりである。

<保存処理修復>

- ・展示公開のため中岡慎太郎に関する書状、詩書などの資料の軸装
- ・展示公開のため借用している仁井田五人衆の兜について錆止めなどの保存処理
- ・西畑人形40頭のうち2頭の保存処理
- ・刀剣は、資料収集委員や資料調査員の指導を受けながら学芸員1名が継続的に手入れを実施
- ・登録文化財旧味元家住宅主屋1棟は囲炉裏に4回火を入れ、台風時にはワイヤーで固定するなど災害から文化財を守る処置を行った。また、台風・豪雨によるたぶさの雨漏りの処置等のため茅屋根修繕を2回、中学生の体験学習に合わせ障子貼りを1回行った。
- ・民俗写真資料の白黒フィルムのカビ取り等の保存作業等を180本行った。

<複製品の製作>

- ・今年度は実施していない。

<展示保存環境>

- ・展示室のケースの照明はLED及び無紫外線蛍光灯を使用、ケースはノンエアタイトケースとエアタイトケースを使用している。エアタイトケースは主に指定物件などの重要資料の展示に使用し、個々の資料に合った適切な温湿度に設定して展示した。展示環境においては、夏期は温度24.5度湿度55%、冬期は温度24度湿度55%の保存環境維持に努めている。
- ・収蔵庫資料(作品)は、資料に適した温湿度で管理し、収蔵庫の温度は20~22度、湿度55%、24時間空調で管理している。
- ・新資料搬入時は、他の資料に虫害やカビが発生しないように、文化財用の燻蒸ガスを用い、環境に配慮して燻蒸を実施している。(4回実施)
- ・館内38箇所に虫害トラップを設置(3回)し、文化財害虫等の状況を把握するとともに、捕獲した害虫の分析を業者へ委託(2回)した。
- ・作品展示のためできた孔をクロスの穴埋め材等で塞ぐ作業を3階総合展示室と1階企画展示室で実施した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・資料の収集については、長宗我部氏に関するものや本県に関する貴重なもの等、後世に引継ぐべき文化財を保護・保存するなど、意欲的な取り組みが認められる。・展示・収蔵環境については、公開承認施設として適正な管理を行っており、収蔵資料の修復や複製品の作成等を計画的に行い、資料の維持管理に努めたと認められる。

要求水準－調査・研究

高知県の歴史、考古、民俗の各分野の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

- (1) 職員の専門性の向上を図るとともに、収蔵資料の調査研究や、各分野の中から題材を絞り、テーマ性を持った調査研究を進め、その成果を、展示や研究紀要などを通じて広く公開する
- (2) 長宗我部氏関係の資料の研究を進め、展示などを通じて広く公開する

状況説明

<考古>

本年度は、第44連隊関係遺跡の調査や高知県東部の四国八十八ヶ所霊場の調査を行う委員会に参加し、調査及び報告書の刊行に協力した。また、土佐国分僧寺跡の寺域確認調査の指導も行った。近世の土佐藩の製鉄関係資料の調査を行い、新たな考古資料が存在することを突きとめた。民俗担当の学芸員に協力し昭和時代の資料の調査を行い、その成果の一部を展示した。

<歴史>

寄贈・寄託、一時預かり資料の基本台帳整備、データ入力のための基礎調査を行った。また、企画展・コーナー展開催に向けた予備調査や、資料調査員とともに共同調査を行った。

<民俗>

本年度は民俗担当の企画展2本、郷土玩具関連のコーナー展2本の開催のための調査を行った。また、山崎茂氏寄贈の郷土玩具の調査について具体的な実施計画を検討した。県教育委員会文化財課主体の高知県民俗芸能緊急調査が3年計画で始まり、担当学芸員1名が委員として協力している。

<美術工芸>

企画展開催のため、高知市吸江寺の美術工芸品の調査を行った。また、南国市内の八幡宮の由緒等について地域の方から依頼を受け、資料調査員とともに現地調査を行い、結果を報告した。

<考古>

発掘調査の説明の表記や地図表示を一部見直し、よりわかりやすくなるよう『国指定史跡 岡豊城跡』パンフレットを改訂した。また、平成31年2月末まで岡豊城跡の詰に設置していた櫓で展示していた続・日本100名城のパネルを2階ロビー掲示板に展示するなど、来館者に向け継続して広報を行った。

<歴史>

コーナー展「香宗我部氏の遺品」の会期中、開館記念日に資料調査員による展示解説を行い、調査研究の成果を多くの来館者に伝えることができた。また、来館者サービスの一つとして、希望に応じて岡豊城跡の案内を随時実施した。

評価	理由
A	・企画展に関する調査研究を積極的に実施し、成果を発表していることが評価できる。 ・昨年度まで国史跡 岡豊城跡詰への櫓で展示していたパネルを館内に移設し、紹介するなど、長宗我部や岡豊城への関心を高めたことが認められる。

要求水準－展示・公開

これまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを伝え、県民の郷土への誇りと愛着を育む

評価項目

- (1) 公開承認施設として、貴重な資料の公開など魅力ある企画展示を行い、5年間で13万5千人以上の観覧者を目指す
- (2) 来館者一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや展示解説など、郷土の歴史や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状況説明

企画展を4回行い、関連した講演会・講座・公演・ミュージアムトークなどを実施。入館者は22,209人となった。会期が前年度より37日間短く、また期間中の台風接近や新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館もあったが、1日あたりの入館者数では92.5人(平成30年度:67.7人)と昨年度を上回っている。

令和元年度は新たな指定管理5年間の初年度であり、2つの企画展で重要文化財の公開を行った。旧大柝高校での民俗資料一般公開事業を含め、今後の収蔵資料の活用と調査研究の成果発表に関する工夫を検討する提案ができたと考えている。

＜令和元年度企画展入館者実績＞

「土佐・木の民具ものがたり」4/26～6/30 66日間 5,098人

「昭和から平成へーくらしのうつりかわりー」7/19～9/16 59日間 8,776人

※8/15 台風のため臨時休館

「開創700年記念 吸江寺」10/4～12/1 59日間 4,058人

「遠流の地 土佐」1/10～3/8 56日間 4,277人

※3/6～8 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

＜令和元年度通常展入館者実績＞

入館者数 101日間 7,113人

レファレンスサービスについては、学芸員が電話や対面により対応する他、解説補助員が受付や展示室で質問や問合せを受ける場合がある。簡易な質問には参考資料等をもとに、主に解説補助員等が回答し、専門的な質問については学芸員が対応している。令和元年度はのべ96件85時間35分にのぼり、昨年度とほぼ同程度となっている。また、研究者や学生に対する資料調査対応は、計35件77時間35分であった。企画展などの展示解説は、次の通りである。

＜企画展関連企画ミュージアムトーク＞

「土佐・木の民具ものがたり」3回 計48人

「昭和から平成へ」3回 計53人

「開創700年記念 吸江寺」3回 計46人

「遠流の地 土佐」2回 計40人(3/8は新型コロナウイルスによる臨時休館のため中止)

「遠流の地 土佐」ベビーカーツアー1回 6人(3組)

計12回 193人 (P.4 ウ(ウ)ミュージアムトーク)

その他、団体などの予約による展示解説については要望に応じて解説員、学芸員が対応している。昨年は50件対応した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響を受けながらも、一日あたりの入館者数が昨年度に比べて大幅に増加するなど一定の成果は認められる。また、民俗や歴史に関し、幅広く企画展を開催するなど努力が認められる。 ・県立の歴史系総合博物館として、様々なレファレンスや調査要請に対し丁寧に対応しており、また、企画展ごとにミュージアムトークを開催しており、観覧者の理解を深める取り組みを充実させている。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目

- (1) 学校との連携による出前授業や校外学習などに計画的に取り組み、子どもたちの歴史や文化に触れる機会を充実させる
- (2) 県民が郷土の歴史や文化に親しむことができる講演会や講座などを開催する

状況説明

企画展やコーナー展で取り上げた土佐の歴史などに関心をもってもらうため、大人から子どもまで参加できるよう、様々なプログラムを実施した。

<教育プログラム(ワクワクワーク)の実績> 計 223 人

「世界でひとつだけの木の鳥を作ろう！」参加者 42 人

「ミニもろぶたを組み立てよう！」参加者 18 人(見学1人)

「流行歌をレコードで聴こう」参加者 23 人

「民家体験！夏 Version」参加者 7 人

「実は茶所！？土佐茶の魅力再発見」参加者 32 人

「土佐和紙漆喰張り子 ねずみの絵付け」参加者 36 人(見学5人)

「土佐硯と土佐和紙体験」参加者 36 人

「珊瑚のかんざし作り」参加者 29 人(見学6人)

<学校等教育関係の取組>

・体験学習：火おこし、勾玉作り、甲冑体験、囲炉裏体験(19校 868人)

・学校授業と連携したポイント解説(19校)、通常展示・企画展自由見学(22校)

ビデオ学習(14校)、国史跡岡豊城跡見学(12校)

(来館学校等実数計 32校 1,755人 ※引率者を含む)

・出張授業：7件 376人(大学の授業を含む)

・職場体験学習：5校 13人

・バス送迎事業：2件 高知市立横浜新町小学校 83人 ※教員5人

高知市立神田小学校 117人 ※教員5人

・大学との連携：博物館実習1校(1人)を7日間受け入れた。

・高知大学で「日本文化史」、「博物館経営論」の講義を行った(受講生 86人、77人)。

本年度は、各分野にわたる企画展を開催し、関連する講演会・公演・講座などを下記のとおり開催。

<講演会・公演・講座>

○講演会

企画展「土佐・木の民具ものがたり」

武蔵野美術大学教授 神野善治氏「木の民具―箸にも棒にも柱にもかかる話―」50人

企画展「開創 700 年記念 吸江寺」

宗教学者 吸江寺 住職 小林玄徹氏「吸江寺について」148人

コーナー展「陸軍歩兵第 44 連隊とその時代」

高知大学教授 小幡尚氏「歩兵第44連隊とその時代」73人

シンポジウム「豊臣政権下の四国」(第 12 回四国地域史研究連絡協議会大会と合同)

九州大学大学院教授 中野等氏「豊臣政権下の四国」90人

○公演

企画展「土佐・木の民具ものがたり」

土佐の建築職人「土佐の大工と左官の技」

○講座

企画展「土佐・木の民具ものがたり」

当館資料調査員 中脇 修身氏「木を切る・削る・彫る―土佐の大工の技―」54人

企画展「開創 700 年記念 吸江寺」

神戸学院大学 准教授 中村 健史 氏「吸江寺と禅僧の文芸」72人
 れきみんのお正月
 当館学芸チーフ(学芸担当) 梅野 光興「土佐のお正月」11人
 企画展「遠流の地 土佐」
 福岡市博物館学芸員 佐藤 祐花 氏「通史でとらえる日本の流刑 古代の流刑」124人
 明治大学教授 清水 克行 氏「通史でとらえる日本の流刑 中世の流罪と土佐」160人
 当館学芸員 石畑 匡基「通史でとらえる日本の流刑 幕藩体制における「預人」」131人
 九州大学医学歴史館学芸員 赤司 友徳 氏「近代の流刑・徒刑－北海道に送られた
 囚徒の処遇について－」中止
 <職員の派遣>
 高知近代史研究会、須崎市生涯学習講座、南国史談会など多くの講座、研究会等に講師として派遣
 <子どもたち等に来館してもらう取組>
 ・ワクワクワーク(子ども歴史教室)の開催 (再掲:223人)
 ・季節のイベント開催
 れきみんの日(クイズの陣、坂本龍馬湿板写真实物資料の公開など) 807人
 れきみん! サマーミュージアム(ワークショップ、ミュージアムトーク、東工業高校ものづくり
 教室、ボンネットバス、葉脈標本・炭焼き体験、デカルコマニーなど) 4日間 3,883人
 れきみんのお正月(ワークショップ、ミュージアムトーク、実演販売・土佐硯、吟詠と剣詩舞の共演
 チーム 龍吟鳳舞、遠流 de 歴ビン、ねずみ探しなど) 2日間 1,014人

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展関連の教育プログラムの実施や、体験学習、出張授業等を毎年継続して開催することにより、子どもたちが歴史や文化に触れる機会を充実させていることが認められる。 ・季節のイベントや、楽しみながら歴史を学べる様々なワークショップを開催しており、館の創意工夫が評価できる。

評価項目

本県の歴史や文化に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状況説明

(1)紙媒体・マスコミ・インターネットを通じた広報
 ・企画展のポスター・チラシを県内の学校・コンビニや県内外の博物館へ送付し、幅広く広報している。
 ・館のリーフレットや『年間カレンダー』を刊行案内所、旅館、ホテルなどへ配布し、県内外の観光客の目にも触れるようにしている。
 ・新聞やテレビの他、ホームページ(HP)などインターネットを活用した広報も積極的に行っている。
 (年間の館 HP アクセス数:40,387 件)
 ・『ほっとこうち』、『るるぶ』など情報誌や歴史系の雑誌にも掲載し、広報強化に努めている。
 ・企画展開催前には報道機関に情報提供し、企画展の取材につなげている。

(2)イベント等における広報活動
 ・大野川合戦まつり(大分県)、ご当地キャラまつりin須崎、ものべがわフェスタなどに出店し、グッズ販売や当館のPRを行った。
 ・カレンダー作成と組み合わせた岡豊山フォトコンテストを継続実施し、岡豊山への来場を促すとともに応募作品は広報素材として活用した。

(3)広報プロジェクトチームによる広報内容等の検討と実施
 ・企画展や各種イベントの開催前・会期中を中心に SNS による情報発信を積極的に行った。
 ・「ポスター貼ります隊」(登録者8名)は継続登録者を中心に、県民密着・参加型の広報活動を継続している。

評価	理由
B	・新聞特集記事や広告の掲載を実施し、積極的な情報発信により、県内外に館の魅力を広めていると評価できる。 ・年間を通じて、地域のコンビニの協力を得て、チラシ等を常時配置している。 ・広報プロジェクトチームの設置や「ポスター貼ります隊」の活動など、昨年度から取り組み始めた工夫を継続し、周知していくなど、観覧者増に向けた今後の取組みに期待する。

評価項目

- (1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る
 (2) 岡豊山周辺を歴史的な好奇心を高めるゾーンとして位置づけ、関係機関と連携した取り組みを通じて地域の活性化に貢献する

状況説明

(1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実

- ・企画展の開催にあたり、県立高知城歴史博物館や県立美術館、仁淀川町や香美市の歴史民俗資料室など各市町村との借用・貸与を通じて相互に内容の充実を図ることができた。
- ・公益財団法人 禅文化研究所や梶原町教育委員会、創造広場アクトランド等の協力により企画展「開創 700 年記念 吸江寺」を充実させた。
- ・こうちミュージアムネットワークと協力し、平成 30 年 7 月に発生した西日本豪雨で被災した愛媛県宇和島市の寺院所蔵資料の保存処理を昨年度に引き続き行った。当館からは付着した泥・カビのクリーニングなどに職員が 6 人参加した。また、一昨年に当館学芸員が館リーフレットに執筆した救援活動の記録を、愛媛県の博物館が作成する展示解説図録への転載に協力した。
- ・日本博物館協会主催の各種会議へ積極的に参加し、教育普及の活動内容や館内のサインの工夫や来館者サービスなど、他館等との情報交換で得たことを館内で共有することで以降の取組に取り入れた。
- ・四国地区博物館協議会に参加し、就学前施設との連携や地域の歴史資料を活用した学習プログラムの開発に関する事例報告、博物館を取り巻く全国的な状況についての講演が行われ意見交換を行った。
- ・物部地域や徳島県と連携し、第 8 回旧大柵高校民俗資料一般公開を実施し、民具の公開とともに実演や物販等を行った。(P.6 オ旧大柵高校活用・物部関連事業)
- ・その他、県内博物館、県市町村教育委員会、県民グループ等と調査研究、資料保存、館内イベントなど様々な場面で協力し、県民サービスの向上に努めた。

(3) 岡豊山周辺の取組

・長宗我部氏、国史跡・岡豊城跡の文化資源の活用

- 長宗我部展示室では、諸大名との交渉を通して長宗我部家に貢献した長宗我部元親の弟・香宗我部親泰にスポットを当てたコーナー展「長宗我部家の外交官-香宗我部親泰の遺品-」を開催し、長宗我部氏を取り巻く人物像を紹介するなど新たな情報の発信を行った。
- ・国史跡・岡豊城跡では、「国史跡・岡豊城跡めぐり」として、前年までのボランティアガイド等による案内を規模は縮小したものの継続し、参加者は 92 人であった。参加者からは解説があると史跡がよくわかれると好評であった。

(2) 国史跡・岡豊城跡を活かした地域住民との連携

- ・岡豊山、岡豊城跡を会場に「岡豊山さくらまつり(土佐の食1グランプリ)」、「長宗我部フェス」等のイベントを土佐のまほろば地区振興協議会、地域ボランティア、岡豊地区各自治会、地域女性グループ、カルチャーサポーターの協力も得て実施した。両イベントとも第 10 回であり、また南国市政 60 年の記念企画も盛り込んだ内容で、例年以上に南国市や南国市観光協会、物部川 DMO 協議会などとの連携を強化することになった。また南国市等を周遊するスタンプラリー「長宗我部元親 RALLY」ではワークショップも併せて開催し集客と広報にもつながった。
- ・当館を起点に岡豊城跡、周辺の史跡をめぐる「土佐のまほろばウォーク」は土佐まほろば地区振興協議会のガイドに担当してもらい、定員は少ないものの、キャンセル待ちができる人気の企画となった。
- ・南国市立岡豊ふれあい館(公民館)からの要望を受け、「第 10 回岡豊ふれあい総合文化祭」で展示を行った。長宗我部氏や企画展の紹介、岡豊城跡の発掘写真のほか地域の史跡である岡豊別宮八幡宮所蔵作品についてもパネルで紹介した。また、当館学芸員が「長宗我部元親と天下人」をテーマに講演を行った。地元の方々が大変熱心に聴講及び見学し、歴史への関心を高めることができた。

(3)長宗我部ゆかりの地との連携

・「長宗我部フェス」では、長宗我部元親・信親ゆかりの地、大分県から豊後大友宗麟鉄砲隊を招き、火縄銃の演武を披露してもらうなど継続的に交流を深めている。また、11月には大分県で開催される「大野川合戦まつり」に出展し高知県及び当館の広報を行い、誘客につなげるよう努めた。

・「長宗我部フェス」の翌日には、高知市・若宮八幡宮で「長宗我部まつり」が開催されることから、両イベントを「土佐長宗我部の陣」として共通のポスターを作成するなど効果的にPRをおこなった。「長宗我部まつり」には、当館で管理している甲冑を貸し出すほか、マスコットキャラクターである「若武者もとちか君」を派遣するなど、広報活動もおこなった。

評価	理由
A	・県内の博物館等の資料調査、展示、保存等への協力・連携に努めたことが認められるとともに、こうちミュージアムネットワークと協力し愛媛県の寺院の被災資料のクリーニングを実施したことも評価できる。 ・土佐のまほろば地区振興協議会等とともに、地域に根付いた活動を実施することを通して、長宗我部氏を含めた岡豊山全体の魅力を発信したことが評価できる。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

<社会的責任>

・始業、終業時刻の遵守、時間外勤務事前命令の徹底、時間外を行った場合の速やかな報告などについて、職員に周知し、業務日誌、受付業務日誌へ各人の勤務時間の記載など、適正な労働時間管理に努めた。

・通勤などで使用する自家用車、公用車の運転は法規を遵守する。

・個人情報管理は、(公財)高知県文化財団の個人情報保護規定により適正に運用している。

・資料借用や預かりの際の相手方との書類のやりとりを適正に行うよう、学芸員を指導している。

<建物や設備の管理>

(点検・修繕)点検作業の結果、下記の修繕を実施した。エレベーター、自動ドアの点検も実施した。

①空調機エアハンドリングユニット、②公園トイレ汚水ポンプ、③授乳室入り口床、④空調湿度調節器(体験学習室)、⑤歴史公園遊歩道石段、ベンチ、⑥公用車、⑦消防設備

(業務委託)

・展示室内の空調等の機械設備は業者委託し毎日点検。故障時は職員も立会し、機器の状態の情報共有をし、修理を検討する。なお、高温時は除湿器を稼働し展示室内の湿度調整を実施。

・館内外の清掃は業者に委託し清掃を実施。特にトイレ清掃では、委託業者により花やトイレトーパーを入口に設置。閉館時には解説員・警備員がトイレなど巡回をし、清掃や確認も実施。

<危機管理>

・館内外警備は24時間警備を委託し、夜間機械警備も併用している。毎朝警備報告を確認、夜間異常がある場合は職員と連絡ができる体制を組んでいる。大雨時や震度3以上の揺れが確認された時は、夜間でも特別巡回を指示している。

評価	理由
B	日頃から危機管理意識を十分に持ち、非常時に速やかな対応がとれる体制を構築している。

評価項目	
(2) 利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・来館者アンケートを実施し、アンケートの内容は職員間で情報共有し業務改善に活かしている。 ・アンケートや電話等によりいただいた声には、可能な限り対応するように努めている。 <p>利用者の意見の反映例</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 駐車場前の案内図が古くなり不鮮明 → 令和2年度に改修 ② 身障者用トイレのスペースに荷物置きを設置してほしい → 荷物を置ける簡易な台を設置した <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは、館の感想として87%の方から「大変満足」または「良かった」の回答をいただいている。また、受付や説明における接遇について、年間を通じて「良かった」「親切だった」との意見をいただいている。 ・職員は研修に参加し、専門性の向上に務めている。学芸員は、資料の取扱いについて日々研鑽し、県内外で調査・研究を行い、学会に参加している。 <p>研修の実施状況：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 国立歴史民俗博物館主催の専門職員研修 ② 高知県文化財団主催の学芸員専門研修、避難訓練(全職員) ③ 高知県主催の公務員倫理研修・人権問題研修 <ul style="list-style-type: none"> ・岡豊山で動けなくなった来場者の救出や急病者への救急車出動要請などを行っている。本年度はさくらまつりにおいて急病者2名に対応した。 ・平成31年1月から館内組織横断的なプロジェクトチームの1つとしてお客様改善要望対応PTを発足させており、受付業務等の中で把握した要望事項について、定期的に検討する仕組みを作った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス向上に向け、利用者からの要望・意見に迅速に対応していることが評価できる。 ・「お客様改善要望対応PT」により、来館者の要望に応じる体制を構築することで、サービスの充実を図る取り組みを行っている。

評価項目		
(3)利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の観覧者目標 31,000 人に対し、企画展4回・コーナー展等5回を開催し 29,322 人と約 95%の達成となった。3月の新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館(3/6～22 17日間)が影響している。 ・岡豊山歴史公園(国史跡・岡豊城跡)への来場者目標は 25,000 人に対し、26,530 人で達成した。 ・団体のバスでの来館は 115 台であり、H26 年度の 250 台をピークに減少傾向にある。環境整備や満足度の高い対応など団体のリピート来館へもつながるよう PT でも改善案を検討している。 ・登録文化財旧味元家住宅主屋は学校や地域のサークル団体など 11 件、多目的ホールは貸館や共催事業のほか、学校団体、ビデオ視聴で 57 件の利用があった。有料での利用が各 1 件と少ない状況であるため、課題として貸館についての広報不足を認識し、これを解消するよう次年度以降取り組む。(P1ア 利用状況) ・学校単位での来館数は、32 校で 1,755 人、延べ 86 校で 4,368 人であり、近年は 1 校が複数の学習メニューを体験している傾向にある。今年度、要綱を整備した学習支援バス事業も来館増への足掛かりとなるよう積極的に活用していく。

評価	理由
B	・観覧者数については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館したことにより、観覧者数が伸びなかったため、目標数をわずかに下回ったものの、岡豊山歴史公園でのイベント開催等、来場者増に向けての館の意欲が認められる。

評価項目		
(4)収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・観覧料収入は 4,909 千円で、予算額に対し 75%の達成に止まった。入館者数が 95%達成であったことを考えると、有料入館者の比率が低くなっている。イベントでの入館者と併せて有料入館者を増やす取り組みが必要である。 ・図録等の販売収入は 1,068 千円で、新規作成した企画展図録の販売が予定ほど伸びなかった。 ・長宗我部氏関連のオリジナルグッズを作成し、当館の広報も兼ねて県内外のイベントにて販売した。 ・日本芸術文化振興会から 818 千円の助成を受けるなど、外部資金の調達に努めた。 ・施設管理費のうち電気料については、今年度から財団全体での入札で供給事業者を決定し経費を抑えるほか、電気量のデマンド値にも常に気を配り、必要な対応をするなどし削減に努めた。 ・その他消耗品等の発注には、グリーン購入法に配慮しつつ価格を比較検討したり、見積りを複数から徴収するなどの取り組みを行った。

評価	理由
B	経費削減やグッズ等の販売への工夫が認められる。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・岡豊城跡の詰にあった櫓で展示したパネルを館内で継続して展示することや、展示関連企画を充実させたことで県内外の多く来館者や来場者があり、さらにボランティアによる岡豊城跡案内も好評であったと認められる。 ・企画展等の観覧者数は目標を下回ったものの、一日あたりの入館者は昨年を大きく上回った。岡豊山歴史公園でのイベント開催や、館外での一般公開事業等の実施など、内外に向けて取り組みを行っており、一定の成果は認められる。 ・企画展のうち企画展「開創 700 年記念 吸江寺」では、公益財団法人禅文化研究所や栲原町教育委員会、創造広場アクトランド等と協力して開催するなど、地域連携に貢献することができた。 ・教育普及関係では、ワクワクワークや職場体験などを通して、児童や生徒に歴史の重要性を伝えるとともに継続的な事業展開ができています。 ・地域の関係団体と良好な関係を築き、行事やイベントを開催しており、地域活性化への貢献が認められる。 ・「お客様改善要望対応PT」により、来館者の要望に応じる体制を構築することで、サービスの充実を図る取組を行っている。 <p>以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。